

故郷の人物を知ろう

たかおか

おん こ ち しん

温故知新

乱世を生き抜いた

勝興寺9世 顕栄^{けんえい}(1509~80/84)・
10世 顕幸^{けんこう}(1555~1604)

顕栄・顕幸父子は戦国乱世のなか勝興寺の舵を
とりました。顕栄は勝興寺8世実玄^{じつげん}の三男で、妻は
細川晴元^{にしよう}の養女・如勝^{けん}です。本願寺顕如^{けんによ}の猶子^{ゆうし}
(義理の親子関係)となり、1556年、勝興寺の住
職に就任し、60年には院家^{いんげ}(本山に次ぐ寺格)と
なり本願寺内で高い格式を得ました。越中一向一
揆を瑞泉寺と共に率いて活躍し、上杉、織田らの
戦国大名と争いました。特に、1570~80年の大
坂の石山合戦(本願寺顕如対信長)では、越中か
ら兵員・食糧・弾薬を送るとともに、自らも出陣
したともいいます。

顕幸は、顕栄の長子で、妻は朝倉義景の娘で

す。1582
年、本能寺
の変以降、
秀吉が急速
に勢力を増
し、83年、
秀吉は柴田
攻めを前
に、瑞泉寺



左から顕栄真影・顕幸真影(共に勝興寺蔵)

と勝興寺に本願の保証を条件に一揆を催促し成政
を牽制しました。それに対して84年、成政は守山
城主・神保氏張^{つじはる}を通して勝興寺に古国府城跡(越
中国府跡)周辺の土地を与えました。しかし、在
京中の顕幸は秀吉に接近し、翌年8月の越中攻めに
同行します。その後、越中を支配することになっ
た前田家との強い関係が始まりました。顕幸は、
難しい時代の変化にうまく対応し、勝興寺繁栄の
基礎を築きました。

(仁ヶ竹主幹)

問合先 博物館 TEL 20-1572